



プレス カメラマン ストーリー

Press Photographers' Story

2009.5.16 sat. — 7.5 sun.

■会場＝東京都写真美術館2階展示室 ■開館時間＝10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで ■休館日＝毎週月曜日
■観覧料＝一般 500(400)円／学生 400(320)円／中高生・65歳以上 250(200)円 ※()内は20名以上の団体料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料
■主催＝東京都 東京都写真美術館／朝日新聞社 ■後援＝日本新聞博物館

東京都写真美術館

<http://www.syabi.com>



プレス カメラマン ストーリー

Press Photographers' Story

ジャーナリストでもあり、アーティストでもあった。
花形プレス・カメラマンたちの、自由な表現に秘められたストーリー!

1930年から1970年代前半に、朝日新聞社に在籍したスタッフ・カメラマンたちのなかから際だった活躍をしていた、影山光洋・大東元・吉岡専造・船山克・秋元啓一らの仕事を中心に展示します。

新聞社が写真部を独立した組織体制にしたのは昭和4年で、朝日新聞社はその先駆けでした。それまで新聞社は、通信社の機能を一部兼ねていた写真製版会社のカメラマンから写真を買っていましたが、自社で写真専門教育を受けたカメラマンを雇い入れることで、スピーディーで専門性の高い写真取材ができるようになりました。当時、プレス写真は新聞だけでなく、写真を扱う中心的メディアであったグラフ誌や週刊誌にも広く掲載されました。グラフ誌や週刊誌は新聞に比べ取材期間が長く、また、テーマ性のあるシリーズ作品なども発表できたことから、彼らはより表現の幅を広げて写真を撮ることができたのです。

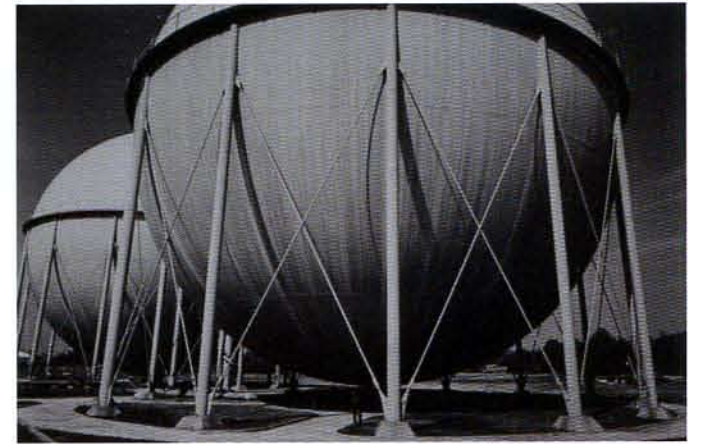
本展では、当時の新聞社における写真部・出版写真部の役割を紹介しながら、プレス・カメラマンたちが背負うストーリーを、豊富な作品を通してご紹介いたします。



大東元 <第29回全国中等野球大会(甲子園)> 1947年
東京都写真美術館蔵



秋元啓一 「銃殺—ある高校生の死」より 1965年
東京都写真美術館蔵



船山克 <ガスタンク> 1959年
作家蔵



吉岡専造 <鳩山退場> 「現代の感情」より 1956年
東京都写真美術館蔵



影山光洋 <小麦の収穫祝い、家族の肖像> 「芋っ子ヨッちゃん的一生」より 1946年2月13日
東京都写真美術館蔵

■担当学芸員によるギャラリートーク

第2・4金曜日 14:00～
*本展覧会半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

■講演会

2009年5月17日(日) 会場:1F 創作室

○第1部 13:00～15:00

玉本明(ジャーナリスト)×戸田昌子(写真史研究者)

○第2部 16:00～18:00

吉江雅祥(全日本写真連盟顧問)×白谷達也(写真家)

*当日10:00より本展覧会半券をお持ちのかたに1F受付にて整理券を配布いたします。
なお、第1部・第2部は別々の整理券となります。

[表写真] 大東元 <跑不評(女子プロレス)> 1960年代頃

東京都写真美術館 2階展示室

恵比寿ガーデンプレイス内 <http://www.syabi.com>

JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分。

東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分。

お車でご来場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 TEL:03-3280-0099

